

鎌倉市教育委員会 令和7年12月定例会会議録

○日時 令和7年(2025年)12月17日(水)
10時30分開会 11時11分閉会

○場所 鎌倉市役所 402会議室

○出席委員 高橋教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 1人

○本日審議を行った案件

日程1 議案第20号

学校教育法の施行に関する規則の一部を改正する規則の制定について

日程2 報告事項

(1) 課長等報告

ア 鎌倉市教育振興基本計画の策定について

イ インクルーシブ教育推進シンポジウムの開催について

ウ 行事予定

(令和7年(2025年)12月17日～令和8年(2026年)1月31日)

(2) その他報告

高橋教育長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより12月定例会を開会する。本日の会議録署名委員は林委員に依頼する。本日の議事日程は手元に配付したとおりである。それでは日程に従い議事を進める。

1 議案第20号 学校教育法の施行に関する規則の一部を改正する規則の制定について

高橋教育長

日程の1、議案第20号に入る。「学校教育法の施行に関する規則の一部を改正する規則の制定について」議案の説明を願いたい。

学務課担当課長

議案集は、1ページを参照願いたい。鎌倉市立小・中学校では、卒業式において、その全課程を修了した証として、卒業証書を卒業児童・生徒に授与している。卒業証書の様式は、学校教育法の施行に関する

規則において規定しているところであるが、様式から割印欄を削除するため、同規則中の第 24 号様式の一部を改正することとする。3 ページ、新旧対照表を参照願いたい。様式の記載中、左上の「割印」の欄には、卒業証書と卒業生台帳の関連を証明するため割印を押印しているが、学校現場において相当の事務負担となっている。当該割印を廃止したとしても、卒業証書の有効性が失われるものではないことから、令和 7 年度に授与する卒業証書から割印を不要とし、様式から削除するものである。なお、施行期日は、告示の日とする。

下平委員

業務上の手間が削減されることは、教員たちの負担が減って素晴らしいと思う。割印を廃止しても卒業証書として問題はないとのことであるが、卒業生台帳にも割印を押していたと思うが、台帳に割印が残らないことは様々な意味で問題はないか。

学務課担当課長

その点に関しても問題はないと確認をしている。

(採決の結果、議案第 20 号は原案どおり可決された)

2 報告事項

(1) 課長等報告

ア 鎌倉市教育振興基本計画の策定について

高橋教育長

日程の 2、報告事項（1）のアに入る。「鎌倉市教育振興基本計画の策定について」報告を願いたい。

教育文化財部次長兼学びみらい課担当課長

令和 7 年（2025 年）4 月に策定した「第 3 期教育大綱」において、教育大綱の理念を実現するための具体的な施策を「教育振興基本計画」として策定することとした。教育委員会や社会教育委員会の場で議論を行い、パブリックコメントを経て、計画案を取りまとめたため、報告を行う。

なお、本計画案を取りまとめるにあたり、これまで「教育プラン」「生涯学習プラン」等、教育関連の計画・プランが複数並立しており、学校現場や市民から見て分かりづらい状況にあったことを踏まえ、今後教育委員会として進めるべき政策を横断的かつ構造的に整理する設計としている。

本日配布している資料は「別紙 1 教育振興基本計画案の概要版」「別紙 2 教育振興基本計画案」の 2 つである。別紙 1 の概要版を用いて説明を行う。

別紙 1 の 1 ページを参照願いたい。教育大綱においては、「炭火のごとく誰もが学びの火を灯し続け、生涯にわたり心豊かに生きられるまち鎌倉」を目指す姿に掲げ、それを実現するための行動指針として「学習者中心の学び」を据えるとともに、具体的な政策の方向性として 4 つの柱を位置付けた。教育振興基本計画では、①②等の丸番号が政策の柱、A、B 等のアルファベットが重点プロジェクトとなっており、この構造は教育大綱で策定したものと同一である。本計画案では具体的な施策まで記述したことと

なる。

各柱に沿って説明を行う。まず、「ワクワクして未来を創る学びを生み出す」である。スクールコラボファンド等を活用しながら「新たな時代に対応した学びの実現」を目指すとともに、「デジタル技術による学びの転換」として、cellularモデルの一人一台端末整備とその活用や、次世代型校務支援システムの導入、生成AIの利活用を通じた「校務DXの実行」を進める。

次に、「地域の宝物を活かし、生涯かけて学ぶ機会をつくる」である。「地域と学校の連携推進」として、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の推進を図るとともに、「生涯学習・体験学習の機会充実」として、生涯学習センターでの取組を中心とした学習プログラムの充実や、スポーツ・文化体験機会の確保等に取り組む。また、「歴史・文化の保存・継承・活用」に取り組み、文化財の調査・研究体制の整備や、伝統・文化的な学習機会を充実させる。

次に、「多様性を尊重した学びで共生社会を共創する」である。由比ガ浜中学校での取組や、校内フリースペース・通級指導教室等の整備を通じた「こどもたちの学びの多様化」を進めるとともに、「インクルーシブ教育の実現」に向けた取組の推進・体制整備、人権と多様性を認め合う教育を推進する。また、「子育て・子育て環境整備」として、こどもを持つ保護者が安心して子育てできる環境への支援を進める。

最後に、「学習者中心の学びを支える環境を整備する」である。教員たちが「こどもとの対話」や「授業・教材研究」に向き合う時間を増やすため、学校における働き方改革を推進するとともに、市費負担教員の任用や、教育委員会の体制充実を進め、「学校の指導・運営体制の充実」を図る。また、「安全・安心で豊かな学校教育環境」を整備するため、学校整備計画に基づく学校施設の老朽化対策はもとより、学校トイレの洋式化、体育館冷暖房設備の設置等の設備整備等を進める。また、図書館・博物館や生涯学習センター等の地域における「生涯学習基盤の整備」にも着実に取り組む。

ここまでご説明した施策の詳細や、各施策の成功イメージ等については計画案の全体版に記載しているので参照願いたい。本計画の期間は、第3期教育大綱期間と連動し、令和7年度～令和11年度までとする。計画期間中、施策の進捗や成果を本計画に基づいて検証し、更なる改善を図り続けたいと考えている。

なお、本計画案は既に市議会12月定例会・教育福祉常任委員会において報告を行っている。今後は、本日の教育委員会終了後速やかに決定手続きを行い、年内に決定することを予定している。

高橋教育長

教育委員から何度も審議いただいている。前回総合教育会議でもかけたところではあるが、教育委員会定例会でも報告することを承知願いたい。意見等あればお願いしたい。総合教育会議でも申し上げたが、教育大綱は、法に基づいて、我々教育委員と教育長で作る大きいビジョンであり、骨組みのようなものだと思っている。この教育振興基本計画というのは、まさに骨をベースにどう動かしていくかという筋肉の役割になり、これで前に動いていくものになるかと思っている。ビジョンやコンセプトを実装していくための施策として整理させていただいた。絵に描いた餅にせず実践することがこれから大事になるため、目線を合わせながら現場と一緒に前へ進めたい。

林委員

炭火という言葉を教育長の合言葉にして、全部の学校を回って下さり、直接現場の教員たちにも伝えていただいたことも非常に功を奏して、言葉が学校の中での市民権を得てきたと思う。子どもや地域の実態等があるため、様々な計画を一気に実施することはできないが、自分たちの学校ではまずどこからできるか、炭火のように何十年も先まで続けられるものは何かを是非検討して進めていただきたい。どの学校でも最終的なイメージは炭火なのだという共通理解がこれからできるのではないかと期待している。

下平委員

何度も話し合いを重ねたことを生かしていただきありがたく思う。膨大な枚数に及ぶ教育振興基本計画を、見やすくそれぞれ4項目にまとめていただき、チェックもしやすいという形になっていて非常に良かった。良いものができても、何年にも及ぶ計画であるため、焦点をしっかりと絞って、林委員も学校ごとにとおっしゃっていたが、今年大事にするものやそれがどこまでできたかを振り返る形で積み上げていけるようにしていただきたい。

長尾委員

林委員から教員の現場でという話があったが、民間の学童保育や小学校の塾の講師と会う機会が多く、その方々からも鎌倉の学びは学習者中心の学びで炭火だよねとおっしゃっていただいた。このことから、鎌倉の中では、義務教育以外への波及もあることを強く感じており、教育委員会と教育長が足繫く現場を訪れているからであると思う。土台が揃っていて、ここからスタートダッシュを切りやすいと感じた。

朝比奈委員

最初に炭火という話が出たとき、これをどのように伝えていくか非常に悩まれたと思うし、努力していただいたおかげで、概念が様々なところに期待通りに伝わっていて、鎌倉らしい教育の在り方を表現していると感じる。また、教育振興基本計画の扉ページのイラスト等を皆で考えたが、炭火とペンギンが温かそうにしているのが、いかにも心が温かくなってくる。鎌倉市の教育への期待を表しているようで、自身も今後も期待していきたい。

高橋教育長

この場で少し報告になってしまうが、12月13日の土曜日に「炭火ファンミーティング」というようなタイトルで、これまで鎌倉のスクールコラボファンドで寄付して下さっている方や講師として学校で教えて下さった方等50人ほどをお招きし、イベントを由比ガ浜中学校で開催した。非常に楽しんでいただけるイベントとなって、鎌倉のファンを増やせたと思っている。子どもたちが受けている鎌倉の学びを大人たちにも体験していただくというコンセプトで、漁師の方々が天然わかめと養殖わかめの食べ比べ講座を実施して下さったり、子どもたちのiPadに入っているAIドリルを大人たちも使用してみたり、自分のウェルビーイングや生き方を考えるワークショップ等を実施した。NPO等ではそのようなファンミーティングを実施することが多いが、教育委員会としては初めてであったため、大変盛況であった。メディアの皆様も入って下さり、今後記事にもなるだろう。「炭火」は、子どもたちだけのものではなく、生涯学びを貫いていく視点が大事であると考えている。その上で、教育委員会の組織の体制について市議会

へ議案として提出し、議論しているところである。その中では、子どもの施策と、教育の施策を一体的に運用ができるよう提案している。議会で認められれば、育ちと学びを全区間で進んでいける組織になると思っている。政府にはこども家庭庁があるが、文部科学省から幼児教育等を切り出しているものではない。鎌倉市では全て一貫していることから、生涯に渡って貫いていける育ちや学び、あるいは学習者や子どもたちの視点に立った施策として貫いていける組織であると思っている。教育委員会の仕事も目線が広くなるところはあるが、しっかりと今後の施策についても進めていけるようにしたい。

(報告事項(1)のアは了承された)

イ インクルーシブ教育推進シンポジウムの開催について

高橋教育長

報告事項(1)イに入る。「インクルーシブ教育推進シンポジウムの開催について」報告を願いたい。

教育文化財部次長兼学びみらい課担当課長

来年2月に開催する、インクルーシブ教育推進シンポジウムについて、説明を行う。鎌倉市では、平成31年(2019年)に「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」を制定し、個人の年齢や性別、障害及び病気の有無等の違いに関わらず、それぞれの多様な人々が尊重され、どのような立場になろうとも自分らしくいられる社会を目指している。そうした基本理念に基づき共生社会の実現を目指すにあたり、学校においてもインクルーシブ教育を推進し、子どもたち一人ひとりが共生社会について学び、その実現のために必要な認識や理解を相互に深めていくことが不可欠だと考えていることから、令和7年度に策定した新たな教育大綱や第Ⅲ期特別支援教育推進計画の中でもインクルーシブ教育を重点的に推進していくことを述べている。具体的にインクルーシブ教育を推進するにあたっては、推進に必要なノウハウを研究し、得られた知見を市内に広げていくことや、インクルーシブ教育の理念を学校の児童生徒、教職員はもちろんのこと、保護者、地域住民の方々に浸透させていくことが重要だと考えている。

前者についてはインクルーシブ教育実践推進モデル校を指定して今年度から研究を始めているところであり、今回のシンポジウムは後者、すなわちインクルーシブ教育の理念を市民の皆様に広げることを大きな目的として開催するものである。

具体的な内容について説明する。別紙3、説明資料の4ページを参照願いたい。まず、日時は令和8年(2026年)2月1日、日曜日である。先述のとおり、市民の皆さまに多くご参加をいただくため、休日の開催としている。会場は鎌倉女子大学大船キャンパスである。内容は、教育長の基調講演のあと、様々な立場の方を招いてのパネルディスカッションを行う。教育、福祉、保護者、それぞれの視座からインクルーシブ教育について意見交換を行う。

インクルーシブ教育は、人によって解釈が様々である。唯一の正解を論議するためではなく、お互いの考え方をそれぞれリフレクションすることを通し、今の環境の中で一歩先に進めることを称え、更なる一歩につながるようなシンポジウムにしたいと考えている。

今後、各校の児童生徒、教職員、また、地域との連携が肝心であると考えていることから、コミュニテ

ィスクール委員にも別紙４のチラシを配付し、周知を行う。その他、市長部局や関係機関の方々、市民にも向けて積極的に広報を行う。教育委員会として初の試みであるが、意義深い機会になるよう努める。

下平委員

非常に素晴らしい試みだと思う。この別紙４のチラシは、特定の方々、今すでに活動して下さっている方に向けてのもので、市民に対するチラシというのは全く別のものになるのか。

教育文化財部次長兼学びみらい課担当課長

市民にも同じものを配布させていただく。ただ、市民にはオンラインやSNSでもこのチラシを添付して、告知していきたいと考えている。現在のところは、事前に学校の教員等に告知し、１月１日から募集を本格的に開始する予定である。

下平委員

チラシを今初めて見たが、市民から見ると、イベントの対象者が明確ではなく、偉い人の名前が並んでいると少し参加をためらってしまうため、この機会に一緒に考えることや、誰でも参加できること、参加費等具体的な内容が書いてあると、「これなら参加できそう」と思っていただけなのではないか。市民がこのような場に出るのはハードルがあるため、何か説明がないと逆に参加しにくい印象のチラシになっているのではないか。雰囲気は非常に柔らかく、試みとしては大切だが、もうひと工夫をした方が、市民が誰でもハードルを越えて行ってみたいと思えるのではないかと感じた。

教育文化財部次長兼学びみらい課担当課長

チラシは開催直前になるため修正が難しいが、基本的にはSNS等でこのチラシも含めて一緒に発信していくことと考えている。教員たちに分かりやすくするために作っているものであるため、XやFacebook等で発信していく際には、参加費や内容、どなたでもご参加いただけることをしっかりと発信していきたい。

高橋教育長

チラシも工夫させていただく。もっともなご意見であると思う。どのようなことを実施するかわかるように、柔軟さは維持する視点で、今回のポイントは皆で実施することであると思っている。教員の研修として学ぶのではなく、まさに子どもや大人、教員、保護者、地域の方、専門性の有無関係なく、誰でも参加できるということが今回のインクルーシブというテーマにも通ずると思う。鎌倉でも様々な積み上げがあるので、そういったところも知っていただければと思っており、教育委員の皆様にもお話したとおり、インクルーシブ教員のモデル事業も実施している。御成小学校と御成中学校で、今回登壇いただく教員たちと関谷小の教員たちともリサーチしており、それも加えつつ、少し具体性が伝わると良いと思う。御成小学校等は肢体不自由の子どもたちもいて、体育の授業や運動会が混ざったものも実施している。スクールコラボファンドを活用した事業では、タップダンサーや世界各国のダンスの方にもお越しいただき、インクルーシブな場づくりをしていただいている。どんな子も学びになる場づくりをしているのは非常に良いと思っているので、その点が伝わるように広報の工夫をさせていただき、開催日を迎

えたい。

長尾委員

シンポジウムのパネラーである、ユニバーサル絵本ライブラリーUniLeaf代表の天下氏はどのような活動をされているか。

教育文化財部次長兼学びみらい課担当課長

天下氏は、保護者としてもご参加いただいているが、建長寺の小さい模型等を使って、目に困難を抱えられている方でも楽しめる絵本を広げる活動をされている方である。

(報告事項(1)のイは了承された)

ウ 行事予定

(令和7年(2025年)12月17日～令和8年(2026年)1月31日)

高橋教育長

報告事項(1)ウに入る。「行事予定」について、記載の行事予定で特に伝えたい行事等があれば報告願いたい。

(教育文化財部)

特になし

下平委員

年末年始の国宝館や歴史文化交流館の開館についてはどのようなになるか。担当の方が出席していないので、後程また伺いたい。

高橋教育長

後程確認して伝える。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

(2) その他報告

林委員

1点目は、11月27日に国宝館等にご案内いただき、説明いただいた。自身も長く鎌倉に住んでいるが、なかなか大事なものを見せていただく機会がなかったため、非常に良かった。説明をしていた方も熱心に取り組んでいるのが伝わり、鎌倉は幸せであると感じた。

2点目は、12月5日に毎年行われる小学校の音楽会に午前、午後参加してきた。先ほどの炭火ではな

いのだが、音楽の教員として初任のときからこの音楽会に毎年参加しているが、それぞれの学校が工夫をして、子どもたちの一番良いところを引き出そうと音楽に取り組んで下さっていて、非常に嬉しく拝見した。しかし、打楽器の指導が今後の鎌倉の課題であると感じる。子どもたちは上手く演奏しているのだが、打楽器の指導が行き届いていない。この点については音楽部会にも話しているが、教員たちが子どもたちの人数や声の出し方で選曲をしたり、校長の話を聴くと、音楽の教員だけではなく、学年や得意な教員が朝や昼休みに手伝いをする等の工夫をしているとのことであった。この日の演奏は学校全体で作ったと声をかけていただき、音楽の大切さをしみじみと感じた。

下平委員

鎌倉国宝館と歴史文化交流館を見学して非常に勉強になった。学芸員の説明が素晴らしかった。自身は日程の調整がつかず、最後の日程になってしまったが、何人かの方から非常に良かったと聞いたため、見学に行ったものである。企画展が始まった後にでも、教育委員会の皆様で行ける方々が学芸員の説明も聞きながら体験し、ロコミをしていくことは大事ではないかと思う。展示物を実際に見ないと、チラシだけでは魅力が伝わらず、もったいないと感じる。自身もできれば企画展を早いうちに見させていただき、全国からより多くの方に来ていただけるように説明できればと改めて思った。

12月2日の東アジア文化都市の閉会式に参加したが、困難なことが直前にあった中で素晴らしい閉会式であった。市民の方にも喜ばれ、多くの方にご協力いただいたのも伝わってきた。

音楽会に関しては、中学の音楽会も含めて、せっかく来賓席を用意しているため、来賓の方にもっといらっしゃってほしいと感じる。議会と重なり日程調整がつかないと思うが、せっかく全校の小学生があれだけ力強い練習の成果を発表しているため、他の教科の教員たちや教育委員会の方々にも見ていただき、教育の素晴らしさを実感してほしいと毎年思うため、再検討を願いたい。

高橋教育長

音楽会は自身も毎年参加できず残念であるが、学校のカリキュラムとの関係もあり非常に難しいところで、我々も工夫の余地があるか考えたい。下平委員からあった国宝館と歴史文化交流館の企画展については、是非教育委員会や自身も含めて学びを深める機会を引き続き持ちたい。北条政子展も企画しており、SNS等でも発信していただけるため、非常にありがたい活動であると思う。我々と教育委員で5人いるので手分けをして、それぞれの持ち場で発信していけると良いと思う。

続いて、前回の議事であった「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果」について修正があるので報告を願いたい。

教育文化財部次長

教育委員会11月定例会にて、「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について」報告を行ったが、いじめ重大事態の件数について、令和6年度に鎌倉市で発生した件数を3件と伝えたが、正しくは2件である。理由は、調査を集計する段階で1件減らす修正があったものについて、誤って計上したものである。訂正してお詫び申し上げる。もう一点は、不登校の状況について、不登校の3というところに、「令和5年度不登校児童生徒への指導結果状況」というのがあったのだが、タイトルが正しくは「令和6年度不登校児童生徒への指導結果状況」である。内容につ

いては、誤りはない。

高橋教育長

「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の結果について」は、議会や国への報告等、公表している資料は修正したものとなっており、前回の教育委員会で諮ったものについて訂正を行うものである。教育文化財部長は議会对応のため欠席しているため、教育文化財部次長から報告があれば願いたい。

教育文化財部次長兼教育総務課担課長

教育文化財部長は本日、東アジア文化都市事業担当部長として総務常任委員会に出席している。教育文化財部長からは、現在開催中の令和7年12月定例会の一般質問および教育福祉常任委員会の内容の報告をする予定であった。予め教育委員に送付している資料を確認いただきたい。

先ほど下平委員から、年末年始の国宝館と歴史文化交流館の開館についてお尋ねがあったが、調べたところ歴史文化交流館は12月28日から1月4日まで閉館、国宝館は今年収蔵物の特別整理期間を設けており、12月15日から2月6日までを整理期間として休館する予定である。

高橋教育長

先ほど下平委員から話があった、インクルーシブ教育推進シンポジウムについては、チラシを既に印刷しているようなので、広報については今後、改善をしていきたいと考えている。

下平委員

インクルーシブ教育推進シンポジウムは、我々教育委員も参加した方が良いか。

高橋教育長

ぜひお願いしたい。市費負担教職員について報告する。市費負担教職員は、市議会令和7年6月定例会で条例が制定され、採用選考について7月24日に記者発表を行い、8月4日から8月31日まで応募を受け付けた。一次試験ではこれまでの実績等の書類選考をして、二次試験ではビデオ面接、三次面接で複数人の面接官で、複数回の面接を行ってきた。採用の状況は、応募者が123名、一次合格者が43名、二次合格者が21名、そして三次合格者が10名となり、合格通知を発出することができた。自身も全員に会ったが素晴らしい合格者たちであるため、3月1日にこの10名にできるだけ来ていただけるよう、必要な手続きを進め、我々もアピールしながら4月を迎えていきたい。

高橋教育長

以上で、本日の日程は全て終了した。これをもって12月定例会を閉会する。